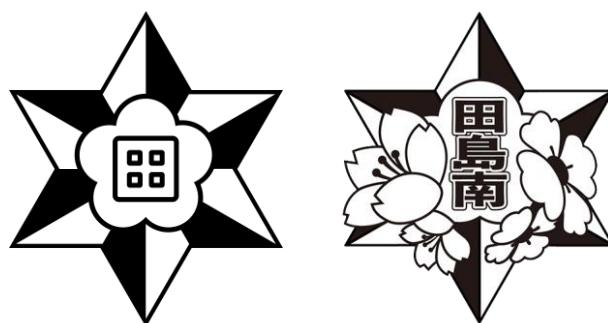


令和 6 年度  
「運営に関する計画」  
(最終評価)



田島南小中一貫校

令和 7 年 2 月 3 日

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

小中一貫校としてスタートして 3 年目となる。

スローガン「I' ll get my dream. We' ll support your dream. ～つかめ 自分の夢 ささえよう みんなの夢～」のもと、4つの柱「言語力の育成」「性・生教育」「キャリア教育」「読書活動の充実」を軸に今年度も学校づくりを進めていく。

令和 5 年度末に大阪市教育振興基本計画が見直されたことを受けて、令和 6 年度は本校の課題をより精選し、以下の点について重点的に取り組むこととする。

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 【小学校の現状】

- ・小学校学力経年調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合：80% (R5 目標 85%)
- ・年度末の校内調査における、不登校児童の在籍比率：3.61% (416 名中 15 名)

#### 【中学校の現状】

- ・年度末の校内調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合：86.7% (R5 目標：82%)
- ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率：11.2% (196 名中 22 名)

#### 【田島南小中一貫校の課題】

- 「生きる教育」をはじめ、すべての教育活動で自己肯定感を高める取組の推進。
- 不登校等支援が必要な児童生徒が、落ちついて学習生活できる環境の整備。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 【小学校の現状】

- ・小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対市比（同一母集団での比較）
 

4 年 : 95.1 (R4 より 3.4Pt)	5 年 : 98.7 (R4 より 3.4Pt)	6 年 : 94.8 (R4 より 3.7Pt)
--------------------------	--------------------------	--------------------------
- ・小学校学力経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合
 

3 年 : 67.9%	4 年 : 29.9%	5 年 25.4%	6 年 : 18.5% (R5 目標 : 全学年 30%以上)
-------------	-------------	-----------	---------------------------------

#### 【中学校の現状】

- ・中学生チャレンジテストにおける、国語の平均正答率の対府比（同一母集団での比較）
 

8 年 : 94.9 (R4 より +0.7Pt)	9 年 : 99.2 (R4 より +3.2Pt)
---------------------------	---------------------------
- ・年度末の校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合
 

7 年 : 25.6%	8 年 : 25.6%	9 年 : 35.1% (R5 目標 : 全学年 32%)
-------------	-------------	-------------------------------

#### 【田島南小中一貫校の課題】

- 国語科において「話しことば」の育成方法を探究することによる教員の授業力向上。
- 全教科における言語活動を取り入れた授業についての研究や研修の継続的な実施。

## 【学びを支える教育環境の充実】

### 【小学校の現状】

- ・年度末の校内調査「読書は好きですか」で肯定的に回答する児童の割合：83.1%（R5目標72%）
- ・学校図書館貸出冊数（児童1人当たりの年間貸出冊数）：23.1冊（9610冊/416名）
- ・年度末に年次有給休暇を10日以上取得した教職員の割合 87.0%

### 【中学校の現状】

- ・年度末の校内調査「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「毎日」「ほぼ毎日」と回答する生徒の割合：47.6%（R5目標：70%以上）
- ・学校図書館貸出冊数（生徒1人当たりの年間貸出冊数）：2.8冊（545冊/196名）
- ・年度末に年次有給休暇を10日以上取得した教職員の割合 80.0%

### 【田島南小中一貫校の課題】

- 図書館環境整備の継続及び読書意欲を高める取組の推進。
- ICT担当教員を中心とした、授業及び家庭での学習者端末の活用方法についての研修を実施し教員のスキルアップに努めることで、本校における教育DXを推進する。
- 学習者用端末の活用について、授業や家庭学習での効果的な使用方法を教員間で共有し、さらなる活用をめざす。

### 中期目標

## 【安全・安心な教育の推進】

### 【田島南小中一貫校共通】

- 令和7年度の小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。
- 年度末の校内調査における不登校の児童生徒の在籍比率を、毎年、前年度より減少させる。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

### 【田島南小中一貫校共通】

- 令和7年度の国語において、小学校学力経年調査の平均正答率の対全国比及び中学生チャレンジテストの平均正答率の対府比を、どちらも1.00以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」として、最も肯定的に回答する児童生徒の割合を、35%以上にする。

## 【学びを支える教育環境の充実】

### 【田島南小中一貫校共通】

- 令和7年度の授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする。ただし、学校行事等ICT活用が適さない日は除く。
- 令和7年度末の学校図書館貸出冊数（児童生徒1人当たりの年間貸出冊数）を、小学校で35冊、中学校で6冊にする。
- 令和7年度末に年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 【田島南小中一貫校共通】

- 小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に回答する児童生徒の割合を、85%以上にする。
- 年度末の校内調査における不登校の児童生徒の在籍比率を、毎年、前年度（小学校：3.7% 中学校：11.6%）より減少させる。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 【田島南小中一貫校共通】

- 国語において、小学校学力経年調査の平均正答率の対全国比及び中学生チャレンジテストの平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02Pt向上させる。
- 小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」として、最も肯定的に回答する児童生徒の割合を、32%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 【田島南小中一貫校共通】

- 授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。ただし、学校行事等ICT活用が適さない日を除く。
- 年度末の学校図書館貸出冊数（児童生徒1人当たりの年間貸出冊数）を、小学校で30冊、中学校で4冊にする。
- 年度末に年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### ○不登校対応について

- ・中学校で不登校生徒数が大きく減少した。担当教員が中心となって、ほっとルームの運用や関係諸機関との連携を進めることで、生徒の実態に即した早い対応をとることができている。
- ・小学校では高止まりの傾向が続いていることから、来年度は担当を設けるとともに、大阪市総合教育センターの実践校「研究IV 不登校の未然防止・解決に向けた研究」として多角的な対応に取り組む。

#### ○学力向上について

- ・6年生は大阪市平均を上回っており、他学年についても昨年度より向上している。経験のある教員による専科指導と、計画的な授業研究による若手教員を中心とした授業力向上の成果である。
- ・中学校は大阪市平均を下回っており、学力向上のためには、これまでの課題解決型学習や読解力育成に今後も継続するとともに、既習内容の定着のための日々の学習指導が重要である。

#### ○生きる教育について

- ・授業の力で子どもたち相互にエンパワメントを生み出し、個のレジリエンスへつなげることをめざして取り組んでいる。また、これまでの内容に加えて、子どもたちにとって身近で心の傷に直結しやすいテーマを設定し、ブラッシュアップを続けている。本校の特色ある取組として、今後もこれを継続する。

#### ○キャリア教育について

- ・生野区役所「生きるチカラ学びサポート事業」を活用し、2年生および9年生で赤ちゃん先生プロジェクト、7年生で職業講話、小学校全学年で漫才ワークショップ、中学校全学年で助産師による性教育を実施した。生きる教育とも連携しており、精選も含めて今後も協力体制を維持する。
- ・生野区役所「IKUNO×ものづくり×ICT 次世代の職業体験プログラム」を活用し、8年生で新しいピッツアのメニューを考える課題解決型学習に取り組んだ。これを継続し、生野区内の企業や団体など地域社会とつながることで、今後もキャリア教育の充実を図る。

#### ○その他

- ・学校図書館貸出冊数は図書館での貸出データをもとに算出しているが、学級文庫については含まれていないことから、実際の冊数は小中ともにさらに高いのではないかと考えられる。
- ・不登校児童生徒への対応や授業力のさらなる向上といった本校の課題解決に向けて、大阪市総合教育センターの資源（教員の資質向上への支援体制・実践研究の蓄積されたノウハウ・大学や企業等の多様な人材交流など）を活用するため、教職員が積極的に研修等に参加し常にアップデートできる環境を整備する。

## (様式 2)

## 田島南小中一貫校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に回答する児童生徒の割合を、<b>85%以上</b>にする。</p> <p>○年度末の校内調査における不登校の児童生徒の在籍比率を、前年度（小学校：<b>3.7%</b> 中学校：<b>11.6%</b>）より減少させる。</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 <b>【指導部】</b></p> <p>好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団の育成を推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケート（毎学期）及び相談申告機能を、1人1台学習者用端末を活用して実施する。</li> <li>・ブロック化による学校支援事業で、hyper-QU を実施し、生徒の実態把握を図るとともに、実態に基づいた指導を行う（中学校）。</li> <li>・区役所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、こども相談センター等関係諸機関との連携を週1回以上行う。</li> <li>・年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、<b>85%以上</b>にする。</li> </ul> <p>→ 2 学期末：小 <b>88.9%</b>、中 <b>78.7%</b></p>	<b>B</b>
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 <b>【指導部】</b></p> <p>9年間カリキュラムの目標を「自分らしい生き方を実現するための力を育む」と定めて、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生野区生きるチカラまなびサポート事業を活用して、インターネットや SNS 等の適切な使い方についての出前授業を実施する（小学校）。</li> <li>・年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、<b>85%以上</b>にする。</li> </ul> <p>→ 2 学期末：小 <b>88.3%</b>、中 <b>97.3%</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生野区生きるチカラまなびサポート事業を活用して、産官学連携の取組を実施する（中学校）。</li> <li>・年度末の校内調査における「将来の夢や目標がありますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、<b>75%以上</b>にする。</li> </ul> <p>→ 2 学期末：小 <b>83.4%</b>、中 <b>71.3%</b></p>	<b>B</b>

<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 <b>【指導部】</b>        不登校等の支援が必要な児童生徒が、落ちついて学習生活できる環境を学校内に設置し、学びたいと思ったときに学べる環境を整える。</p> <p>指標        • 年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を増加させる。        改善：不登校傾向にあった児童生徒が、再び登校できるようになった。        → 2学期末：小 50.0% (R5年度 54.5%)、中 38.5% (R5年度 20.0%)        → ほっとルーム：2学期末 150日の活動日数 延べ 476人の児童生徒が利用</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 <b>【研究部】</b>        「生きる教育」の学習について、関連諸機関と連携し、性と生を考える取組を小中ともに全学年で推進する。</p> <p>指標        • 生野区生きるチカラまなびサポート事業を活用し、助産師による出前授業を実施する（中学校）。<b>実施済</b>        • 年度末の校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、<b>75%以上</b>にする。        → 2学期末：小 70.3%、中 66.0%</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>年度目標</b></p> <p>○小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に回答する児童生徒の割合【85%以上】 2学期末：小 84.3%、中 84.0%</p> <p>○年度末の校内調査における不登校の児童生徒の在籍比率を、前年度より減少させる。【小学校：3.7% 中学校：11.6%】 2学期末：小 3.8% (15人)、中 4.6% (9人)</p>	
<p><b>取組内容</b></p> <p>① <b>好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団の育成を推進する。【指導部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者用端末を用いたいじめアンケートや相談申告機能、心の天気の登録を推進した。心の天気では、1月に各学級別未登録者数1桁の日の割合が80%を達成する学級が半数を超える、習慣化が進んでいる。また、ブロック化による学校支援事業予算と校長経営戦略支援予算を活用して中学校全学年でhyper-QUを実施し、で分析・共有を行い生徒の実態を把握した。</li> <li>関係諸機関と連携し、スクリーニング会議をSSWやSCを交え学期に1回、要保護児童対策地域協議会の報告を月1回、こども相談センターには適宜報告を行った。また、定期的にSSWと情報を共有し指導助言を受け、生徒の実態に基づいた指導を行った。</li> </ul> <p>② <b>9年間カリキュラムの目標を「自分らしい生き方を実現するための力を育む」と定めて、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する。【指導部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットやSNSの使い方について、「生きる教育」で、5年「スマホについてかんがえよう」、8年「思春期における情報教育モラル」に取り組み、中学校全学年で非行防止教室を実施した。またトラブル防止普及リーフレットを配布し、学活や全校集会でトラブル防止するための指導を行った。</li> <li>生野区と連携し、7年で4社が来校して職業講話を受けるとともに、8・9年で「IKUNO×ものづくり×ICT 次世代の職業体験プログラム」として、「生野区の新しいピッツアを考えよう」、「めざせパークファン！誰かを誘って行きたくなる公園を考えよう」を取り組んだ。考案した商品・企画が実現することで、生徒の興味関心を引き出すだけでなく、地域の活性化につなげることができた。</li> </ul>	

**③ 不登校等の支援が必要な児童生徒が、落ちついて学習生活できる環境を学校内に設置し、学びたいと思ったときに学べる環境を整える。【指導部】**

- ・昨年度から「ほっとルーム」を設置し、今年度は不登校支援担当教員及び各サポーターを中心に運営している。サポーターだけでなく教員が定期的にサポートすることで、リモート学習や課題プリント等に取り組んでいる。
- ・「ほっとルーム」から教室へ移動し授業を受けたり、給食を食べたり、学活を受けたりする場面が見られた。また学校行事の練習に取り組むこともあり、学習や対人関係等に不安を抱え、支援を要する児童生徒が、落ちついて学習生活できる環境となっている。

**④ 「生きる教育」の学習について、関連諸機関と連携し、性と生を考える取組を小中ともに全学年で推進する。【研究部】**

- ・9月「生きる教育」全学級公開授業では、大阪市内外の教職員や行政、議員、法曹関係者、保護者など合わせて571名の参加があり、参加者アンケートにおける「公開授業や講演会で得た気づきは今後の実践に役立てることができますか」の質問で、肯定的回答が100%であった。また、授業内容においても、対話につながる手作り教材の工夫や視覚的支援の手助けとなるICT機器を活用した実践を行った。
- ・「生きる教育」における講師派遣の依頼を行うとともに、外部からの問い合わせに対応し、神戸市小学校、大阪府弁護士会、三井住友財団、南丹市学校保健協議会、大阪赤十字病院、こども家庭庁、日本生活指導学会等の取組について助言をした。また、文部科学省「生命の安全教育実践校」として、全市小中学校へ教育実践の共有を行った。
- ・生野区生きるチカラ学びサポート事業を活用し、中学校全学年で助産師による性教育及び9年で赤ちゃん先生の実践を行った。

**次年度への改善点**

○いじめ対応について

- ・引き続きいじめアンケートや相談申告機能、心の天気の登録の推進を行っていく。
- ・「いじめについて考える日」の取り組みや、道徳教育・人権教育を充実させ、自分と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重する態度を養い、いじめの防止に努める。
- ・教育相談の十分な時間の確保によりいじめの実態把握に取り組み、いじめを訴えやすい環境をつくり、いじめを早期発見し、教職員全員による共通理解のもと、保護者の協力を得て対応する。

○不登校対応について

- ・不登校支援担当教員を中心に、不登校の予兆が見られる児童生徒の対応策を検討する不登校対策委員会を、学期に1回から月1回に変更して実施する。
- ・不登校対策委員会で、SSW・SCと情報共有するとともに、指導・助言を受けて対応策を決定する。また、対応策を実施した後は、内容や結果についてさらに共有することで、児童生徒の現状に即した対応策を柔軟に検討する。

○生きる教育について

- ・本校では、児童養護施設の児童生徒や要保護児童対策協議会における要保護・支援児童、そして貧困虐待など家庭環境においてしんどさを抱える児童生徒が多くみられる。脆弱でトラウマを抱えた児童生徒の背景には、自己肯定感の低さなどが見られ学習意欲低下にもつながっているのではないかと考えられる。また自尊感情の低さや特別支援の配慮のいる児童生徒の課題は不登校傾向などにも影響するものと考える。
- ・教職員が偏りのない人権意識を持つこと、また国の施策（こども基本法、教育機会均等法など）について理解を深めることが必要である。そのため、次年度は教職員が児童養護施設やトラウマアタッチメント課題を抱える児童生徒への理解及び不登校における児童生徒理解に対する研修を実施する。

(様式 2)

田島南小中一貫校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○国語において、小学校学力経年調査の平均正答率の対全国比及び中学生チャレンジテストの平均正答率の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より <b>0.02Pt 向上</b>させる。</p> <p>○小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に回答する児童生徒の割合を、<b>32%以上</b>にする。</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑤【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 <b>【総務部】</b></p> <p>言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の学習意欲向上のため、ブロック化による学校支援事業及び区の支援予算を活用し、小学校全学年で漢検を、中学校全学年で英検を実施する。<b>実施済</b></li> <li>・授業改善のため、ブロック化による学校支援事業を活用し、5年及び8年でリーディングスキルテストを実施する。<b>実施済</b></li> </ul>	<b>B</b>
<p>取組内容⑥【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 <b>【研究部】</b></p> <p>9年間を見通した学習カリキュラムを確立するため、5教科において小中協働で学力向上・言語力育成に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校 5 科専科と中学校 5 教科主任の連携を密にし、各教科の特性を生かした授業づくりを行い、小学校教員による 5 教科の師範授業を<b>年間 10 回</b>実施する（小学校）。<b>実施済</b></li> <li>・公開授業期間を設定し、全教員が<b>一人1回</b>以上の研究授業を行うとともに、学力向上支援チーム事業を活用し、小学校算数と中学校数学において学力向上に取り組む（中学校）。<b>年度末までに実施予定</b></li> </ul>	<b>B</b>
<p>取組内容⑦【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 <b>【研究部】</b></p> <p>「がんばる先生支援（グループ研究A）」を活用して、児童生徒の対話力を育てる「国語科教育」の推進を行う（小学校）。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査における「相手の気持ちを考えて話を聞くことができる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、<b>85%以上</b>にする。 → 2 学期末：<b>92.1%</b></li> </ul>	<b>B</b>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査における「授業中自分の考えをよく発表している」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、<b>70%以上</b>にする。 → 2学期 : <b>65.6%</b></li> </ul>	
<p>取組内容⑧【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 <b>【総務部】</b> 学びサポーター、学校元気アップ地域本部事業を活用し、放課後学習会を実施し、主体的な学びを推進する（中学校）。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後学習会を原則として毎日実施する。 → 2学期末 <b>155</b> 日の活動日数 延べ <b>1772</b>人の生徒が利用</li> </ul>	<b>B</b>
<p>取組内容⑨【基本的な方向5 健やかな体の育成】 <b>【総務部】</b> 規則正しい生活習慣を身につけ、児童生徒が自分自身の健康に関心を持ち改善できる取組を推進する。また、食育を通じて歯科保健（噛むこと）の取組を推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査における「給食を好き嫌いせず食べた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、<b>80%以上</b>にする（小学校）。 → 2学期末 : <b>83.9%</b></li> <li>・年度末の校内調査における「朝と夜に歯を磨いている」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、<b>80%以上</b>にする。 → 2学期末 : 小 <b>91.1%</b> 中（朝に歯を磨いている）<b>98.0%</b></li> <li>・年度末の校内調査における「毎日、同じくらいの時刻に起きている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、<b>85%以上</b>にする（中学校）。 → 2学期末 : <b>84.3%</b></li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析					
<b>年度目標</b>					
○小学校学力経年調査の平均正答率の対全国比及び中学生チャレンジテストの平均正答率の対府比（国語）【前年度より0.02Pt向上】					
学年					
R5 年度	4年	5年	6年	8年	9年
R6 年度	0.93	0.83	0.96	0.79	0.95
				<b>0.89</b>	<b>0.93</b>
○小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に回答する児童生徒の割合【32%以上】 2学期末 : 小 <b>40.5%</b> 、中 <b>34.0%</b>					
<b>取組内容</b>					
⑤ 言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。【総務部】					
・小学校全学年で漢検（漢字能力検定）を、中学校全学年で英検（実用英語能力検定）を実施した。さらに、5年及び8年でリーディングスキルテストを実施したことで、児童生徒の言語能力及び読解力の指標とすることができた。					
・（小学校）作品展で保護者と一緒に鑑賞する時間を保障したことで、自分の作品を保護者に説明するだけでなく、友だちや他学年の児童の作品を紹介したり、「学年が上がった時にもっと素敵な作品を作りたい」と語ったりする場面も見られた。					
・（中学校）文化祭でのビブリオバトル及び各学年の展示作品を話し合いながら作成したほか、総合的読解力育成プログラムやリーディングスキルテストを活用し、生徒の言語					

能力の把握と向上に取り組んだ。また、「IKUNO×ものづくり×ICT 次世代の職業体験プログラム」で、課題解決型の体験学習を実施することができた。

⑥ 9年間を見通した学習カリキュラムを確立するため、5教科において小中協働で学力向上・言語力育成に取り組む。**【研究部】**

- ・小学校において、研究授業やチャレンジ授業を合わせて、国語科 14 本/社会科 4 本/理科 3 本/英語科 5 本の授業研究を実施した。
- ・算数科で、習熟度別指導に向けた打合せを密にとり、本校独自の指導計画のベースとなる板書計画を作成した。また、国語科では中学校教員も参加し、小中双方の視点から協議をより深めることができた。

⑦ 「がんばる先生支援(グループ研究A)」を活用して、児童生徒の対話力を育てる「国語科教育」の推進を行う(小学校)。**【研究部】**

- ・全体の標準化得点は、国語科で 1 Pt 向上した。また、理解度を図るアンケート結果は 3 Pt 向上した。
- ・説明文教材は、「内容の読み」と「構成の読み」に分けて授業づくりに取り組んだ。読み解きの視覚化や動作化、板書の構造化など、児童の実態に合わせた個性豊かな独自教材を作成した。
- ・文学教材は、登場人物を教材化して巧みに動かしたり、原作を差し込んだりするなど、児童自らが主題に迫るよう作成した。

⑧ 学びサポーター、学校元気アップ地域本部事業を活用し、放課後学習会を実施し、主体的な学びを推進する(中学校)。**【総務部】**

- ・元気アップ放課後学習会への参加を通じ、生徒の宿題への取り組みの意識の向上や居場所づくりになった。特にテストの前や期間中は非常に高い参加率であり、学習する環境が意欲の向上につながったと考える。

⑨ 規則正しい生活習慣を身につけ、児童生徒が自分自身の健康に関心を持ち改善できる取組を推進する。また、食育を通じて歯科保健(噛むこと)の取組を推進する。**【総務部】**

- ・毎月の安全保健委員会で生活習慣チェック等を行い、結果を振り返り課題を明確にしながら、季節に応じた児童生徒主体の取り組みを行った。
- ・小中合同学校保健委員会を開催し、生徒が企画立案した劇や調べ学習の結果を、ICT 機器を用いて発表した。その後の委員会児童生徒への振り返りでは、すべての児童生徒が「肯定的に取り組むことができた」と回答するなど、とても充実した取組となった。また、PTA や学校歯科医にもご参加いただき、好評を得た。

次年度への改善点

○学力向上に向けた指導のルールについて

- ・テストの採点は教員自身が行い、授業力向上につなげるよう分析を行う。
- ・板書は研究授業にかかわらず、普段から構造的に書くようとする。
- ・「学び方を学ぶ場」を阻害しないために、ワークシートの拡大を貼るまたはモニターで部分的に映すのみの指導を積み重ねることがないようにする。

○話し合い活動（言語活動）について

- ・来年度から総合的読解力育成プログラムを本格的に取り組むことを受け、年間カリキュラムを作成し、教科領域を超えて継続的に言語能力向上に取り組む体制を作る。
- ・国語科以外の教科における言語力を育む場・活かす場を設ける。また、学校行事を巧みに活用し、日常にフィードバックしていく場を設ける。

## 田島南小中一貫校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く。</p> <p>○年度末の学校図書館貸出冊数（児童生徒 1 人当たりの年間貸出冊数）を、小学校で 30 冊、中学校で 4 冊にする。</p> <p>○年度末に年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 85%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑩【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 <b>【研究部】</b></p> <p>学習者用端末を活用した家庭学習の推進や表現力を養うため、学習課題やデジタルドリルに取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校高学年及び中学校において、児童生徒が学習者用端末を活用したプレゼンテーションを行う取組を実施する。</li> <li>・年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしていると思いますか」に対して、最も肯定的に「そう思う」と回答する児童生徒の割合を、70%以上にする。</li> </ul> <p>→ 2 学期：小 26.8%、中 28.7%</p>	C
<p>取組内容⑪【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 <b>【研究部】</b></p> <p>学校図書館を拠点に、学校全体で読書環境の整備・充実を行うと共に読書意欲を高める取組を推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休みや放課後は図書館を原則として毎日開館するとともに、玄関ホールなど図書館以外の場所に図書スペースを設ける。</li> <li>・年度末の校内調査における「日々の生活の中で読書をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、75%以上にする。</li> </ul> <p>→ 2 学期末：小 70.0%、中 41.9%</p>	C

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 年度目標

○授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数【50%以上】

11月末（127日） 小学校 11.0%（8割以上14日 5割以上8割未満68日）  
中学校 3.1%（8割以上4日 5割以上8割未満59日）

○年度末の学校図書館貸出冊数（児童生徒1人当たりの年間貸出冊数）

【小学校30冊、中学校4冊】

2学期末：小 27.6 冊（10895 冊/395名）、中 2.9 冊（568 冊/196名）

○年度末に年次有給休暇を10日以上取得する全教職員の割合【85%以上】

2学期末：80.0%（70名中56名）

### 取組内容

#### ⑩ 学習者用端末を活用した家庭学習の推進や表現力を養うため、学習課題やデジタルドリルに取り組む。【研究部】

- ・年度当初は環境面の不備もあり活用する場面が少なかったが、師範授業や研究授業で児童生徒が学習者用端末を用いるなど、少しずつ授業改善に取り組んでいる。
- ・普段の授業において、Teams 等を用いた各教科の課題提出やアンケートの回答などで、学習者用端末を活用した。また、中学校で長期休暇中にデジタルドリル navima を活用した課題を設定した。
- ・前述の小中学校保健委員会、ビブリオバトル、IKUNO×ものづくり×ICT 次世代の職業体験プログラムなど児童生徒が発表する場では、児童生徒が学習者用端末を用いて資料を作成し発表するなど、児童生徒が学習者用端末を活用する場面は確実に増加している。

#### ⑪ 学校図書館を拠点に、学校全体で読書環境の整備・充実を行うと共に読書意欲を高める取組を推進する。【研究部】

- ・図書館主幹司書が中心となり、独自取組の「懇談 GO!図書館」で児童生徒及び保護者に働きかけた。また、中学校の国語科と連携してビブリオバトルを実施することで、生徒が自ら図書を推薦し、読書活動への興味関心を高めることができた。
- ・(小学校) 学級文庫へ教科・単元に関連した本を設置したり、児童が選書した本を図書館に配架したりした。また、図書委員会で定期的に読書集会を行い、児童が自ら読書活動の推進を働きかけた。
- ・(中学校) 朝読書の充実を促進するとともに、おすすめ図書のポスターを作成し、校内に掲示した。また、生徒集会に文化委員の生徒が発表をしたほか、学級文庫を充実させ、昼食時に読書活動を促す放送を定期的に行った。

### 次年度への改善点

○学習者用端末の活用について

- ・小中で連携し、学習者用端末の効果的な活用方法について検討する。また、それを実践できるように授業計画を立てる。

○図書活動について

- ・(小学校) 掲示板やデジタルサイネージ（玄関モニター）を活用し、読書意欲をより高める掲示物作成の取組を行う。
- ・(中学校) 読書の意識を高めるため、年間プログラムを作成し、さらに創意工夫した取組を行う。

## 令和 7 年度 学校関係者評価報告書

田島南小中一貫校 学校協議会

## 1 総括についての評価

- ・生きる教育をはじめとして、学校は「子どもたちの最善の利益のために」をモットーに、様々な教育活動を推進していると感じました。特に、今年度の成果として小学校では教員の授業力向上、中学校では不登校生徒の減少が見られたことは、教職員の皆さんのが子どもたちに寄り添って丁寧に指導してくださっているからです。とても感謝しています。
- ・保護者や地域の一員として、長い期間で見れば子どもたちの学力は確実に上がっていると実感しています。また、子どもたちが笑顔で学校生活を過ごしてくれることが何よりも嬉しく思います。安全・安心な教育の推進に今後も取り組んでください。
- ・児童生徒が大きなショックを受ける出来事がつい先日あったと聞いて、大変驚いています。子どもたちへの長期的なケアはもちろんですが、教職員の皆さんも思いを抱え込むことのないようにしていただきたいです。

## 2 年度目標ごとの評価

## 年度目標：最重要目標 1 安全・安心な教育の推進

○小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に回答する児童生徒の割合を 85%以上にする。小 84.3%、中 84.0%

○年度末の校内調査における不登校の児童生徒の在籍比率を、前年度（小学校：3.7% 中学校：11.6%）より減少させる。小 3.8%、中 4.6%

## 年度目標：最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上

○小学校学力経年調査の平均正答率の対全国比及び中学生チャレンジテストの平均正答率の対府比（国語）を、前年度より 0.02Pt 向上させる。

学年	4年	5年	6年	8年	9年
R5 年度	0.93	0.83	0.96	0.79	0.95
R6 年度				0.89	0.93

○小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に回答する児童生徒の割合を 32%以上にする。小 40.5%、中 34.0%

## 年度目標：最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実

○授業日において、児童生徒の 8割以上が学習者用端末を活用した日数を 50%以上にする。小 11.0%（14 日/127 日）、中 3.1%（4 日/127 日）

○年度末の児童生徒 1 人当たりの年間貸出冊数を、小学校 30 冊、中学校 4 冊以上にする。小 27.6 冊（10895 冊/395 名）、中 2.9 冊（568 冊/196 名）

○年度末に年次有給休暇を 10 日以上取得する全教職員の割合を 85%以上にする。

小中全教職員 80.0%（70 名中 56 名）

- ・いじめや不登校の問題はとても重要なことだと思います。保護者としても、子どもたちが「学校へ行きたくない」と言うことが一番つらいです。和気あいあいと楽しく過ごすことができるよう、教職員の皆さんには、今後も日々の子どもたちのようすを丁寧に見ていただきたいです。
- ・小中にかかわらず、学年間で学力に大きな差があると思います。そのような状況でも、経年で見ると少しづつ向上しているとの報告を聞くと、教職員の皆さんのが根気強く取り組んでいただいていることに感謝します。
- ・話し合う活動のアンケート結果のように、小学校より中学校のほうが低くなっている項目がいくつか見られます。中学校では高校進学があるので座学が中心になってしまうのは理解できますが、学力向上のために小学校と中学校でのギャップが解消されることを望みます。
- ・図書貸出冊数について、小学校では図書の授業があることが冊数の多い要因のひとつであるとの説明でした。近年ではタブレット等による電子書籍も多く出版されていますが、やはり紙の図書ならではの感動や面白さがあると思います。中学校になるとほとんどの生徒がスマートフォンを所持することもあり、どんどん遠ざかってしまうのかもしれません、紙の図書を読むことの良さを是非これからも伝えていただきたいです。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

- ・運動会などの行事に参加してみると、子どもたちの表情がとても輝いており、すごく良いなと感じました。子どもたちが「行くのが楽しい」と感じることのできる学校を継続していただければありがたいです。
- ・国語力や読解力を育成するというのは以前から聞いています。ひと昔前と比べれば学力は確実に上がっていると感じており、少しづつ成果が出ているのではないかでしょうか。これからは国語以外の他教科の学力も向上することを期待します。
- ・地域の一員として関わる中で、最近の子どもたちは「もうダメだ」や「ああ無理」とすぐにあきらめてしまうように感じており、「粘り強く考えよう。自分のできることをやってみよう」と支えているところです。学校の取組も、すぐ結果に出ることは少ないと思いますが、積み重ねていくことが大切です。じっくりと子どもたちと向き合って、教育活動を推進していただきたいです。